# AI 活用時代における
# 人材スキルの成長方向に関する研究
## －環境作りから始める人材育成－

## アブストラクト


1. 背景

近年のテクノロジーの進化はすさまじく、特に IoT (Internet of Things)、ロボット、人工知能 (AI)、ビッグデータは、社会構造の在り方にも大きな影響を及ぼす技術として日進月歩している。日本が独自に提唱する Society 5.0 においては、これらの新技術が仕事や生活の中に浸透していき、多くの物事が AI 中心で機能するようになる。我々がこのように目まぐるしく変化する時代を生き抜くためには、AI に代替されないスキルを身につけるだけでなく、AI と密接に関連するビッグデータの内包的な価値を最大化するための活用方法を生み出す必要がある。

多くの企業はこのような先進技術を活用し、時代の流れに追随する必要がある。そのためには、次のような人材の育成が必要になると考えた。

・リーダー／キーパーソン
・イノベーションを起こすことができる人材
・科学的な思考を持つ人材

2. 研究目標と研究手順

将来、日本の経済成長を牽引していくことができる人材育成方法の考え方を明示し、LS 研究委員会（以下、LS 研）という単位から活動を開始できるような施策案を提案することを目的とする。

また、研究内容については、独立行政法人情報処理推進機構（以下、IPA）や複数の有識者とも議論し、将来に向けた方向性について意見を頂いた。

3. 研究内容とアプローチ

上記のようなリーダー／キーパーソン、イノベーションを起こすことができる人材（以下、イノベーション人材）、科学的な思考を持つ人材を充足させるには、社会人に対して教育を施すだけではなく、長期的な視点で幼少期からの対策も考える必要がある。そのため、本分科会では短期的な視点での企業風土／文化の改革、さらには中長期的な視点での教育という観点から人材育成について考察した。

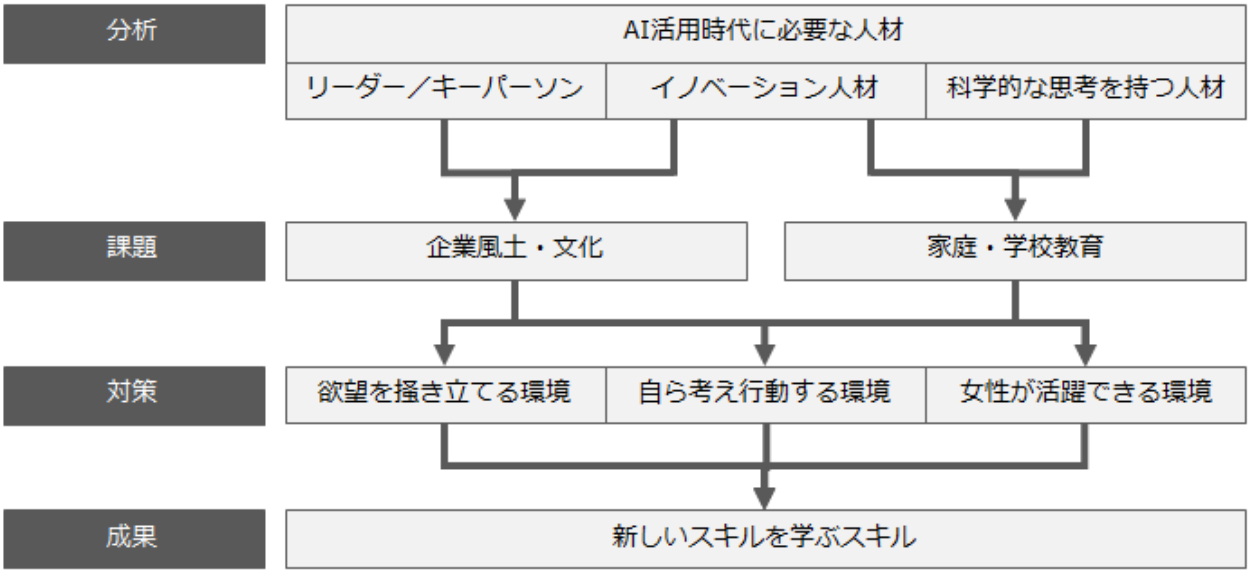
(1) 企業風土／文化の問題

我々は、企業におけるデジタル化などの新規事業を強力に推進する中心人物となるリーダー／キーパーソンの定義を「違う種類の人々や違う考え方を集めて、効果的に結びつけることができる人材」と設定した。企業活動に革新をもたらすことができるリーダー／キーパーソンを育成するために企業がすべきことや、企業が持つべき企業風土／文化について考察した。また、IT 業界の特徴として、従業員の女性比率が極めて低いことが知られている。2020 年までに指導的地位に女性が占める割合を 30%程度に引き上げる日本国政府からの社会的要請もあるため、女性活躍推進という切り口からも、LS 研として貢献できる施策案を策定する。

(2) 教育の問題

長期的な視点で将来のイノベーション人材や科学的な思考を持つ人材を増やすためには、学校教育、家庭教育と、この延長線上にある文系／理系の分断という課題を深く理解する必要があると分析し、これらの課題に対し施策案を策定する。施策案を作成するため、公開情報だけでなく、富士通株式会社に

おける小学校への出前授業の担当者や地方自治体の教育委員会との面談を通じて得られた、小学生が興味を持つような授業における工夫などの知見を活用した。




図．本研究の概要

4. 成果

(1) 企業風土／文化の問題

AI 活用時代には次々と新しい技術が生み出されてくる。それらの技術に対応し、企業活動にイノベーションをもたらすリーダー／キーパーソンとなる人材には、今持っていないスキルを継続的に獲得していくことが必要となる。我々は、このスキルを「新しいスキルを学ぶスキル」と提唱し、IPA との面談においても、この新しいスキルの概念と取り組みについて賛同を得た。リーダー／キーパーソンが活躍できる環境がなければ企業に革新はもたらされないため、企業にはそのような人材を圧倒的にサポートし、そのような人材が自発的に増えるような環境整備が必要である。

(2) 教育の問題

創造性や自発性が豊かな人材を育成するには、企業における社員教育よりも前に、義務教育においてそれらの資質を持つことができるような教育を受けることが極めて重要である。しかしながら、学校や家庭、企業単体でできることにも限界があることから、産官学の連携による学校時間外の学びの場という環境整備が必要である。具体的には、子供達が多様なものに触れ、創造力などを育む機会を与えるということである。富士通株式会社における神奈川県川崎市の小学校への出前授業が極めて有効だったことから、本分科会の参加企業においても、宇部市教育委員会と小学校における次世代授業について意見交換をしたところである。

5. 研究の総括と提言

本分科会では、AI 活用時代に向けて社会人が身につけるべきスキルやそれぞれの企業がやるべきこと、さらには将来の IT 社会を支える子供達に対して LS 研としてできることなどを含め、研究を進めてきた。その結果、「人間は自己実現に向かって絶えず成長する生き物」であることが明確になったが、その行動を起こし継続させるには、それに見合った環境を整えることが不可欠であるとの結論に達した。つまり、人を変えるよりも「環境」を変えるほうが容易で、しかも状況の変化に素早く対応できることから、3 つの環境（欲望を掻き立てる環境、自ら考え行動する環境、女性が活躍できる環境）を整備することが重要であると結論付けた。最後に、AI 活用時代を生きる全ての人材が身につけるべき新たな概念のスキルとして、本分科会より「新しいスキルを学ぶスキル」を提唱する。また、本分科会の成果物をきっかけとして、LS 研参加企業が自発的に行動を起こし、日本の IT 産業を盛り上げることを期待する。